

令和5年度

昭島市立武蔵野小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	〇しっかり考える子(問題解決力) 〇心やさしい子(人間関係形成力) 〇つよく元気な子(体力・活力)	ビジョン	【目指す学校像】	〇児童にとって充実した学校 〇保護者にとって信頼できる学校 〇教職員にとって働きがいのある学
			【目指す児童・生徒像】	〇思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども〇感性あふれる豊かな心をもつ子ども 〇すすんで心と体を鍛
			【目指す教師像】	〇ありのままの児童を受け止め、個性を発揮させる教師 〇授業で勝負できる教師 〇家庭・地域との相互理解

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価
確かな学力	○基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに主体的・対話的で深い学びによる授業改善を目指す。	○算数科を中心とした授業改善に努め、3つの資質能力の育成を図る。	○算数科に対するアンケート調査を実施し、学ぶ意欲の調査を行う。	4 1全教員がアンケートを実施した。 3 80%～100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%～80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4	4 1アンケート調査で70%以上の児童が肯定的な回答をしている。 3 1アンケート調査で70%未満～80%の児童が肯定的な回答をしている。 2 1アンケート調査で80%未満～90%の児童が肯定的な回答をしている。 1 1アンケート調査で90%未満の児童が肯定的な回答をしている。	2	東京都や全国の学力調査の結果の分析と考察を共有し、授業改善と学力向上につながる具体策を実践することで、1月の学力調査では目標達成を目指す。	学力向上に対して、校長主導で全校で様々な取組をしていることが分かった。	A
		○ICTを活用した授業を充実させ、児童の「情報活用能力」の育成を図る。	○昨年度の成果を受け、学校独自のアンケートを実施し、結果を分析して対応策を講じる。	4 1全教員がアンケートを実施した。 3 80%～100%未満の教員がアンケートを実施した。 2 70%～80%未満の教員がアンケートを実施した。 1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4	4 190%以上の児童がタブレットを活用している。 3 80%～90%未満の児童がタブレットを活用している。 2 70%～80%未満の児童がタブレットを活用している。 1 70%未満の児童がタブレットを活用している。	3	年度途中と年度末に結果を比較できるように、低・中学年でも2学期中にアンケートを実施し、児童の実態を把握できるようにした。	年2回のアンケートの実施はより正確な児童の実態を把握できていて、タブレットの活用については、児童への指導と家庭への指導が必要であると考えられる。	B
		○読書活動の推進と言語能力の育成に向け、学校司書及びボランティアが連携し、子供たちの読書活動の推進を図る。	○学校司書が中心となり、ボランティアや委員会の活動等で連携を図り、子供たちの読書活動の一層の推進を行う。	4 1各学級で図書室を4回以上使用した。 3 各学級で図書室を3回以上使用した。 2 各学級で図書室を2回以上使用した。 1 各学級で図書室を1回以上使用した。	4	4 90%以上の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 3 80%～90%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 2 70%～80%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 1 70%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。	1	図書主任が中心となり、図書室支援員や担任と連携しながら、定期的な図書室利用の習慣化を目指した。週に1度以上利用する児童は67%にとどまった。	多くの児童がスマホを持っている時代によく図書室を利用していると感じる。図書によりや提示物から図書に親しめるような取組を工夫していることが分かった。	B
豊かな心	○人権意識を高め、自他ともに大切にする態度を育成する。	○児童の自己肯定感を高め、児童個々の良さを発揮し、安心して生活できるようにする。	○年3回の家庭生活アンケートから児童の自己肯定感を数値化し、個々の児童に応じた指導をする。	4 1全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 3 80～100%の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 2 70%から80%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。 1 70%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	4	4 90%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 3 80%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 2 60%以上の児童が自己肯定感があると感じている。 1 自己肯定感があると感じている児童が60%未満だった。	4	児童が児童の変化に気付くアンテナを高くもち、丁寧な言葉掛けを行うことで、児童が安心して生活できるように努めた。	教員の一言は、児童の一生を左右することがある。丁寧な言葉掛けは大事である。先生方の日々の対応は丁寧だと感じる。	A
		○道徳科を道徳教育の要の時間と位置付け、教科横断的な視点で各教科にて、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	○教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	4 1すべての教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 3 70%～100%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 2 40%～70%の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。 1 40%未満の教員が各教科と関連付け、道徳教育を行った。	3	4 95%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。 1 振り返りを書くことが出来た児童が80%以下だった。	3	道徳授業地区公開講座前に、道徳教育年間計画をもとに全教員で他教科との関連について確認する時間をもち、意識向上を図った。	アンケートや日頃の関わり、個々の丁寧な対応により、児童の人権感覚は育成されていると思う。	A
		○児童の自己有用感を高める活動を行う学級活動を実践する。	○QU調査を年2回実施し、学級の実態に応じた指導をする。	4 1全教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。	3	4 1学級生活満足度が50%以上 3 1学級生活満足度が40%以上 2 1学級生活満足度が30%以上 1 1学級生活満足度が30%以下	4	特別活動部主任が、学級活動計画に基づいて実施されているかどうかチェックを行った。QUの結果分析をもとに学級の実態に合った経営を見直していく。	自己有用感を高める活動はとても大切だと感じる。点検・チェック・改善・指導の繰り返しにより改革を行うことが大切であると感ずる。	A
健やかな体	○健康への関心を深め、基礎的な体力の育成と向上を図る。	○児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。	○低・中・高の系統性を意識した年間指導計画の作成及び体育的活動の充実を図る。	4 1全教員が計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った。	3	4 1調査結果が昨年比平均ポイントから+2ポイント以上 3 1調査結果が昨年比+2ポイント 2 1調査結果が昨年比-2ポイント以内 1 1調査結果が昨年比-2ポイント以下	2	体力向上部を中心に、年間指導計画と年間を通じた全校の体育的取組のよりよい改善を図ったが、昨年度比-0.3ポイントだった。	コロナ禍でのびのび運動できることが困難な中で、前年比-0.3ポイントはよい。引き続き、体を動かすことの楽しさを伝えてほしい。	B
		○規則正しい生活と健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	○生活指導・保健指導・学級活動の充実を図り、計画的な指導を行う。	4 1全教員が計画的な指導を実施した。 3 80%から100%未満の教員が計画的に指導した。 2 70%から80%の教員が計画的に指導した。 1 70%未満の教員が計画的に指導した。	3	4 190%以上の児童が目標を達成している。 3 80%～90%未満の児童が目標を達成している。 2 70%～80%未満の児童が目標を達成している。 1 70%未満の児童が目標を達成している。	4	生活指導部と養護教諭を中心に、年間指導計画の確実な実施を心掛けた。また、適宜、「マスクを外す」指導を行ってきた。	マスクを外す指導より、マスクの上手な使い方の指導の必要性を感じる。社会情勢の変化に対応した指導をお願いしたい。	B
		○望ましい食習慣の形成を促進する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 1全教員が食育計画を活用した指導を行った。 3 80%～100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 2 70%～80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。 1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った。	3	4 190%以上の児童が食育のめあてを達成している。 3 80%～90%未満の児童が食育のめあてを達成している。 2 70%～80%未満の児童が食育のめあてを達成している。 1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している。	3	2学期のお弁当の日の取組状況から、児童の食育のめあてに対する達成度が82%と分かった。栄養士と食育担当を中心に、さらに充実を図っていく。	食の大切さ、楽しさを指導してほしい。お弁当の日を中心に食育担当・栄養士の活躍を期待する。	B
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	○入学時は「スタートカリキュラム」を実施し、学年始めにはなりたい自分を目指す「キャリアアルバム」を作成する。	4 1全教員が方策を実施した。 3 80%～100%未満の教員が方策を実施した。 2 70%～80%未満の教員が方策を実施した。 1 70%未満の教員が方策を実施した。	3	4 190%以上の児童が安心して進級・進学できる。 3 80%～90%未満の児童が安心して進級・進学できる。 2 70%～80%未満の児童が安心して進級・進学できる。 1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる。	3	特別活動部を中心にキャリアアルバムの進捗状況を管理し、全校でそろえて実施できた。進級・進学に関するアンケートは2月実施予定である。	キャリアアルバムの内容を定期的に保護者と共有したい。	B
		○教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	○文化、スポーツ、高齢者、地域工場・店舗での学びの場を、各学年設定する。	4 1全学年の教員が交流体験を実施した。 3 80%～100%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 2 70%～80%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している。 3 80%～90%未満の児童が目標を達成している。 2 70%～80%未満の児童が目標を達成している。 1 70%未満の児童が目標を達成している。	4	全学年が文化やスポーツなどについて外部人材と交流体験を行うことができた。	毎学期、多彩な文化・スポーツのイベントがあり児童も楽しんでいる。今後は市内の様々な国の人と接する機会をもっとほしい。	A
		○学校の取組を、保護者や地域に向けて発信し、教育活動への参画意識を高める。	○学校ホームページや学校だより等を通じて保護者や地域に向けて児童の活動等を発信する。	4 1各行事の実施を受け、毎月ホームページを更新した。 3 各行事の実施を受け、学期に3回ホームページを更新した。 2 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した。 1 各行事の実施を受け、学期に1回ホームページを更新した。	4	4 80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 3 50%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 2 20%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 1 20%未満の保護者が教育活動への理解を示している。	3	市のアンケート結果の教育活動に関する項目の回答を計算すると平均76.5%だった。体力向上と将来や夢に関する項目の理解向上を図る必要がある。	これまで以上にホームページやマチコミで教育活動を発信してほしい。	B

学校
えることができる子ども
親を深め協働できる教師

次年度への改善策
様々な調査結果から、学習指導の在り方を振り返るとともに、児童の実態について次年度に引き継いでいく。
児童のICT技能は向上した。表現のツールとしての活用方法について、さらに指導を工夫していく。
図書主任が中心となり、図書館支援員や担任、委員会担当と連携しながら、定期的な図書室利用の習慣化を目指す。
来年度も児童が安心して生活できるような環境づくりに努めていく。
年度初めに、道徳教育年間計画を周知することで、各教員が各教科とのつながりを意識して指導できるようにする。
次年度も年2回のQUを実施し学級経営に生かしていく。また学級活動計画の更なる充実に努めていく。
年間を通じた体育的活動を充実させ、運動の習慣化を図ることで、児童の体力維持・向上を目指す。
養護教諭を中心として、計測や学級活動を活用した保健指導を充実させる。都・市の方針に応じ、生活様式について柔軟に対応していく。
市内の食材を使用した給食の日やお弁当の日を中心に、食育計画についてより一層の充実を図る。
定期的にキャリアアルバムを保護者と共有する機会をもち、家庭と連携して児童の成長を見守る計画を作成する。
地域・外部人材の活用について情報を集め、様々な人と児童が交流できるようにする。
情報を発信する大切さを共有し、担当だけでなく各分掌の担当者がホームページで情報を発信できるようにする。